

第122回火山噴火予知連絡会
霧島山（新燃岳）の火山活動に関する検討結果

新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止しています。しかし、現在でも火口やその直下には高温の溶岩が溜まっており、新燃岳直下の火山性地震も続いていることから、突発的な噴火が発生する可能性があります。また、今後、深部からのマグマ供給が再開する可能性もあり、新燃岳へ多量のマグマが上昇すれば新たな噴火の可能性もあります。

霧島山（新燃岳）では、昨年9月7日の噴火以降、噴火は発生していません。

新燃岳直下の火山性地震はやや多い状態が継続しています。1日あたりの二酸化硫黄の放出量は、200～500トン程度です。

新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりは、昨年1月26日から2月1日の本格的なマグマ噴火に対応して急激に収縮した後、再び緩やかな膨張を続けました。GPS観測によると、マグマだまりの膨張に伴う基線長の伸びは、本格的なマグマ噴火の際の短縮量の3/4程度となった昨年12月頃からは鈍化し、現在は停滞しています。

新燃岳周辺の地震活動には、顕著な変化は認められず、他の領域の地殻変動データにも特段の変化は認められていません。

以上のように、新燃岳の北西地下深くのマグマだまりには相当量のマグマが蓄積されていますが、現在はマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止していると推定されます。しかし、火口には多量の溶岩が溜まっており、新燃岳直下の火山性地震の活動や火山ガスの放出も続いていることから、現在でも突発的に噴火が発生する可能性があります。また、今後、深部からのマグマの供給が再開する可能性もあり、マグマだまりから新燃岳へ多量のマグマが上昇すれば昨年1月下旬から2月上旬の本格的な噴火の規模に匹敵または上回る新たな噴火活動に至ることも考えられます。

引き続き、新燃岳付近では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。

噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。

降雨時には泥石流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報にご注意ください。